

「主の公現の祭日」の説教

金 大烈 神父 2010年1月3日(日)

《イエス様のもとへ導く星》

おはようございます。

まだ新年の挨拶をしていない人がいましたら「明けましておめでとうございます。」

今日の福音(マタイ 2・1-12)で、東方の3人の博士たちが赤ちゃんのイエス様を拝むために星に導かれて来たことが書かれています。何を贈り物として捧げましたか?“黄金、乳香、没薬”皆様ご存知のようにあの時代一番尊い物でした。

今日は『主の公現』について考えてみたいです。東方の3人の博士たちは何に導かれて来たか聖書に書いてありますか?“星”ですね。星はイエス様の寝かされている馬小屋の上で止まったとあります。私たちにもイエス様に出会うために導きが必要です。ということは私たち各自にも星が必要だということです。皆様にとって星は何でしょうか?子供のころ夜空の星を見て、あの星は私の星、あの星は君の星と言った遊びをしたことがあるでしょう。自分の星を決めてそれを見つけたら、「自分の星が輝いている」とか「ピカピカだ」などと言いつつあのころの童心というんでしょうか、きれいな心が残っていると思います。

私たちにも星が必要です。イエス様と一致を感じさせる星、イエス様と離れないように導いてくれる星が必要です。その星は何でしょう。私たちの人生の中で、生活の中で星は何でしょう?むずかしく考えないで下さい。私たちは毎日いろいろな事件にあいます。いろいろな人々と出会います。そういうことの中で神様の御手を感じられたら、それが星です。その人が星になるか、その事件が星になるか、自然の美しさが星になるか、それは自分がどのような心を抱いているかで変わることだと思います。皆様よく振り返って見て下さい。私たちを正しい道に導いてくれるたくさんの星が私たちの周りにあります。ただ私たちが見ないからわからないということです。何より見ようとする心。見ようとする心とは何でしょうか?その心の中にはイエス様に出会いたい、イエス様とひとつになりたい、イエス様の教えに従いたいという気持ちが含まれているということです。主の公現の主日を迎えてもう一回考えてみましょう。私にとって星は何だろう。もし星だと思われたらその星の後にまっすぐついていこうとする心を許して下さるように祈りましょう。

そして、3人の博士たちは高価な贈り物を持ってイエス様のところにまいりました。私たちもイエス様に贈り物を持っていかなければなりません。その贈り物とは私たちが今まで歩いて来た人生、これから歩まなければならない人生、それがイエスさまの前に出す贈り物になると思います。イエス様を一番喜ばせる贈り物をいつも意識しながら準備しましょう。それが私たちの道ではないかと思いません。

ありがとうございました。